

2020/2021 スピードスケート国際競技会派遣選手選考基準

ワールドカップにおける実施種目や日本の出場枠に関連したルールなど、詳細は国際スケート連盟 (ISU) によって後日通知される予定である (8月頃発表日未定)。これを受けて、本選考基準のうち ISU から通知されるルールに適合しない部分に変更される場合がある。また、ISU によって、ワールドカップ第1～4戦の代替大会の詳細が今後速やかに、そしてそれ以降の各国際競技会の開催10週間前までに競技会開催可否が発表される予定であるため、これらを受けて本選考基準は適時変更される場合がある。

【決定の方法】

国際競技会への派遣選手選考は、以下の基準に基づき、強化部委員会が推薦し、選考委員会又は理事会で承認することによって決定する。

【派遣選手団の編成方針】

1. 日本代表として十分な活躍が期待される選手の中から選考する。
2. 日本代表として十分な活躍が期待できる種目を優先的に選考する。
3. 行動規範を遵守し、活力ある日本スケート連盟を代表するに相応しい選手・役員をもって編成する。

【出場に関する制限】

1. 国際スケート連盟 (ISU) によって以下の通り制限される。
 - ・ 各国際競技会への日本の各種目出場枠数
 - ・ 世界スピードスケート選手権大会 (距離別選手権) 特別参加資格ランキングリスト (SQRL for WSD)
 - ・ 四大陸スピードスケート選手権大会特別参加資格ランキングリスト (SQRL for 4CC)
 - ・ 各国際競技会の参加標準記録 (後述)
2. 日本スケート連盟による派遣標準記録 (後述) を設定し、派遣 B 標準記録以内の選手を派遣対象とする。

【特記事項】

- ・ 各国際競技会において、日本の種目出場枠に空きが生じている場合、当該派遣選手団の監督の責任の下、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を追加でエントリーすることができる。この場合、当該種目の派遣標準記録以内であるかどうかは問わない。
- ・ 各種目 (マススタート、チームパシュートを除く) の補欠は、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長が、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考する。
- ・ ISU の参加要項等に変更があった場合は、それに準じて選考方法等を再検討し変更する場合がある。
- ・ 本選考基準において、JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議による選考を定めている場合において意見の一致に至らなかった場合は、多数決の方法をもって決する。また、ここでの選考は、強化部委員会の出席者 (選考の対象とされる選手と同所属や担当

コーチなどといった関係者を除く) の3分の2以上の多数をもって変更することができる。

~~1. ワールドカップ第1戦トマシヨフマゾウイエツキ大会(11/13~15、実施種目未定)・第2戦スタヴァンゲル大会(11/20~22、実施種目未定)・第3戦ソルトレークシティ大会(12/4~6、実施種目未定)・第4戦カルガリー大会(12/11~13、実施種目未定)~~

※ Ms (マススタート)、TP (チームパシュート)、TS (チームスプリント)

※ 上記ワールドカップ第1~4戦は、ISUによって中止が発表されているが、代替大会が実施される可能性も発表されている。代替大会が実施されることとなった場合、ISUによるその詳細(世界スピードスケート選手権大会や次年度のワールドカップにおける日本の出場枠の対象大会であるか等)の発表を受け、日本代表選手団の派遣の可否を速やかに決定する。なお、この際の選考基準は原則として下記内容に従うものとするが、代替大会の詳細によっては修正が加えられる場合がある。

【選考方針】

世界スピードスケート選手権大会及び次年度以降のワールドカップにおける日本の出場枠拡大を目指し、日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

男子：500m (5)、1000m (5)、1500m (5)、5000m (5)、10000m (5)、Ms (2)、TP、TS

女子：500m (5)、1000m (5)、1500m (5)、3000m (5)、5000m (5)、Ms (2)、TP、TS

【選考基準】

対象競技会：第27回全日本スピードスケート距離別選手権大会

※ 選考は、距離別部門のみを対象とする。

- (1) 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m及び男子5000mの出場枠のうちそれぞれ4名の派遣選手は、対象競技会における当該種目の順位に従い、最上位者から順に選考する。残りの派遣選手は、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、対象競技会にエントリーしている選手の中から、対象競技会の順位や前年度の競技成績を考慮し、選考方針を踏まえた総合的な検討によって枠数に至るまで選考する。
- (2) 女子5000m及び男子10000mの出場枠のうち、それぞれ3名の派遣選手は、女子3000mまたは男子5000mに選考された最上位者から順に選考する(ここで選考された選手は、女子5000m及び男子10000mの派遣標準記録の達成可否を問わず当該種目に選考する)。続く女子1名、男子1名の派遣選手は、すでに選考された者を除く選手の中で、女子5000m及び男子10000mにおける最上位者から順に選考する。残りの派遣選手は、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、対象競技会にエントリーしている選手の中から、対象競技会の順位や前年度の競技成績を考慮し、選考方針を踏まえた総合的な検討によって枠数に至るまで選考する。
- (3) 男女チームパシュートの正選手各3名と補欠選手各1名は、対象競技会にエントリーしている

選手の中から、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、本連盟主催の強化合宿等におけるパシュート練習での力量についての総合的な検討を加えながら、選考する。また、必要に応じて、当該派遣選手団の中から出場可能な選手1名を補欠に加えることができる（この場合の補欠の優先順位は2番目とする）。

- (4) 男女マススタートの正選手各2名（枠順位1及び2番目）と補欠選手各1名は、対象競技会にエントリーしている選手の中から、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、選考する。
- (5) 男女チームスプリントは、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。
- (6) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ ワールドカップ第1戦における各種目のエントリー順は、ISU ワールドカップ参加標準記録（後述）の達成を示すための、エントリー時に所持している記録順によるものとする。
- ・ ワールドカップ第3戦及び第4戦の男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mについては、派遣B標準記録のみ達成して上記（1）により選考された選手が、ワールドカップ第1戦又は第2戦の当該種目においてワールドカップポイントを獲得できなかった場合、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議による必要性の判断に応じて、上記（1）により選考された選手と、上記（1）における次点者（当該派遣選手団外からも可）とで入れ替えを行う場合がある。
- ・ 各ワールドカップの男女チームパシュートにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、遠征中におけるワールドカップの成績や練習状況などを総合的に検討し、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、必要に応じて行うものとする。
- ・ 本競技会（第1～4戦まで）は、当該年度の世界スピードスケート選手権大会（距離別選手権）及び四大陸スピードスケート選手権大会の出場枠獲得対象競技会となる。 ※ただし、代替大会の詳細に依存する。

2. 四大陸スピードスケート選手権大会（1/15～17、カナダ・カルガリー）

【選考方針】

四大陸スピードスケート選手権大会で日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

ワールドカップ第1～4戦までのランキング（SQRL for 4CC）により、以下の国別最大枠数が割り振られる。 ※ただし、代替大会の詳細に依存する。

男子：500m（3）、1000m（3）、1500m（3）、5000m（3）、Ms（2）、TP、TS

女子：500m (3)、1000m (3)、1500m (3)、3000m (3)、Ms (2)、TP、TS

【選考基準】

対象競技会：第88回全日本スピードスケート選手権大会

- (1) 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mでの日本が獲得した出場枠数(2020年12月頃にISUから通知される予定)において、3枠のときは2名、2枠のときは1名、1枠のときは1名の派遣選手の選考は、対象競技会における当該種目の順位に従い、最上位者から順に選考する。残りの出場枠は、すでに選考された選手を除いて、下記の優先順位で、対象競技会における当該種目の順位に従い上位者から順に枠数に至るまで選考する。
 - ① ワールドカップ第1～4戦の代替大会における選考基準を満たし、当該種目の日本代表選手として選考された者。なお、選考後、派遣を辞退した場合もこの対象に含む。
 - ② ワールドカップ第1～4戦の代替大会の選考において、当該種目の日本代表選手の次点者として選考され、正選手として選考された選手の辞退等によって繰り上がることによって派遣された者。ただし、このうち、SQRL for 4CCによって当該種目の日本の出場枠を獲得した者は、上記①に含めるものとする。
 - ③ その他の者。
- (2) 男女チームパシュートの正選手各3名と補欠選手各1名は、ワールドカップ第1～4戦の代替大会に選考又は派遣(個人種目含む)された選手の中から、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長が、ワールドカップ第1～4戦の代替大会における成績や本連盟主催の強化合宿等におけるパシュート練習での力量についての総合的な検討を加えながら、選考する。
- (3) 男女マススタートの派遣選手は、出場枠がそれぞれ2名又は1名だった場合のいずれも、これら正選手及び補欠選手各1名を、対象競技会にエントリーしている選手の中から、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、選考する。
- (4) 男女チームスプリントは、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。
- (5) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ 男女チームパシュート及びチームスプリントにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、遠征中における練習状況などを総合的に検討し、当該年度のJOCナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長が、必要に応じて行うものとする。
- ・ ワールドカップ第1～4戦の代替大会が開催されなかった場合、又は派遣しないこととなったとしても、上記(1)の基準において、前述のワールドカップ第1～4戦の代替大会の選考基準に従って日本代表選手団としての派遣選手を選考し、これを適用する(この場合、優先順位②は除外する)。

3. ワールドカップ第5戦長春大会(2/17～18、中国・長春、500m・1000m・1500m・女子3000m・男子5000m)

【選考方針】

世界スピードスケート選手権大会を見据えて、日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。また、次年度以降のワールドカップにおける日本の出場枠の維持・拡大を目指し、日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

男子：500m (5)、1000m (5)、1500m (5)、5000m (5)

女子：500m (5)、1000m (5)、1500m (5)、3000m (5)

【選考基準】

対象競技会：第88回全日本スピードスケート選手権大会

- (1) 各種目におけるそれぞれ2名の派遣選手の選考は、対象競技会における当該種目の順位に従い、最上位者から順に選考する。
- (2) 各種目における、続くそれぞれ2名の派遣選手の選考は、すでに選考された選手を除いて、下記の優先順位で、対象競技会における当該種目の順位に従い上位者から順に枠数に至るまで選考する。
 - ① ワールドカップ第1～4戦の代替大会の選考基準を満たし、当該種目の日本代表選手として選考された者。なお、選考後、派遣を辞退した場合もこの対象に含む。
 - ② ワールドカップ第1～4戦の代替大会の選考において、当該種目の日本代表選手の次点者として選考され、正選手として選考された選手の辞退等によって繰り上がることによって派遣された者。
 - ③ その他の者。
- (3) 残りの選手は、当該年度のJOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、対象競技会にエントリーしている選手の中から、対象競技会の順位や前年度の競技成績を考慮し、選考方針を踏まえた総合的な検討によって枠数に至るまで選考する。
- (4) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ ワールドカップ第1～4戦の代替大会が開催されなかった場合、又は派遣しないこととなったとしても、上記(2)の基準において、前述のワールドカップ第1～4戦の代替大会の選考基準に従って日本代表選手団としての派遣選手を選考し、これを適用する（この場合、優先順位②は除外する）。

4. 世界スピードスケート選手権大会 (2/25～28、中国・北京)

【選考方針】

世界スピードスケート選手権大会で十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

ワールドカップ第1～4戦までのポイントランキング及びタイムランキング (SQRL for WSD) によ

り、以下の国別最大枠数が割り振られる。 ※ただし、代替大会の詳細に依存する。

男子：500m (3)、1000m (3)、1500m (3)、5000m (3)、10000m (2)、Ms (2)、TP、TS

女子：500m (3)、1000m (3)、1500m (3)、3000m (3)、5000m (2)、Ms (2)、TP、TS

【選考基準】

対象競技会：第 88 回全日本スピードスケート選手権大会

(1) 男女 500m、男女 1000m、男女 1500m、女子 3000m、男女 5000m、男子 10000m での日本が獲得した出場枠数（2020 年 12 月頃に ISU から通知される予定）において、3 枠のときは 2 名、2 枠のときは 1 名、1 枠のときは 1 名の派遣選手の選考は、対象競技会における当該種目の順位に従い、最上位者から順に選考する。残りの出場枠は、すでに選考された選手を除いて、下記の優先順位で、対象競技会における当該種目の順位に従い上位者から順に枠数に至るまで選考する。

① ワールドカップ第 1～4 戦の代替大会の選考基準を満たし、当該種目の日本代表選手として選考された者。なお、選考後、派遣を辞退した場合もこの対象に含む。

② ワールドカップ第 1～4 戦の代替大会の選考において、当該種目の日本代表選手の次点者として選考され、正選手として選考された選手の辞退等によって繰り上がることによって派遣された者。ただし、このうち、SQRL for WSD によって当該種目の日本の出場枠を獲得した者は、上記①に含めるものとする。

③ その他の者。

(2) 男女チームパシュートの正選手各 3 名と補欠選手各 1 名は、当該年度にワールドカップ（代替大会含む）に選考又は派遣（個人種目含む）された選手の中から、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長が、ワールドカップ（代替大会含む）における成績や本連盟主催の強化合宿等におけるパシュート練習での力量についての総合的な検討を加えながら、選考する。また、必要に応じて、当該派遣選手団の中から出場可能な選手 1 名を補欠に加えることができる。

(3) 男女マススタートの派遣選手は、出場枠がそれぞれ 2 名又は 1 名だった場合のいずれも、これら正選手に加え、補欠選手各 1 名を、対象競技会にエントリーしている選手の中から、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、選考する。

(4) 男女チームスプリントは、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、当該派遣選手団、ワールドカップ第 1～4 戦の代替大会・四大陸選手権大会におけるチームスプリント出場選手又はワールドカップ第 5 戦における 500m、1000m、1500m のいずれかの代表選手の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。

(5) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ SQRL for WSD におけるリザーブリストの活用による出場枠の再配分がなされた場合、この時点において、出場可能な選手を、移動にかかる時間的な制限（フライト予約等）を含めて総合的な検討を加えながら、選考する。なお、この枠の再配分は、ISU ルールに従い、最終、当該種目実施前

日のチームリーダーズミーティングにおいてなされ、出場の可否が決定される。

- ・ 男女チームパシュート及びチームスプリントにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、遠征中におけるワールドカップの成績や練習状況などを総合的に検討し、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長が、必要に応じて行うものとする。
- ・ 各種目（マススタート、チームパシュート及びチームスプリントを除く）における正選手と他選手（当該派遣選手団における出場可能な選手）との入れ替えは、正選手の成績が著しく低下していた場合、又は他選手において極めて優れた成績が見込めると判断された場合、ワールドカップ第 5 戦の成績やドクターの意見などを総合的に検討し、当該年度の JOC ナショナルコーチ、スピード部長及びスピードスケート強化部長が、必要に応じて行うものとする。
- ・ ワールドカップ第 1～4 戦の代替大会が開催されなかった場合、又は派遣しないこととなったとしても、上記 (1) の基準において、前述のワールドカップ第 1～4 戦の代替大会の選考基準に従って日本代表選手団としての派遣選手を選考し、これを適用する（この場合、優先順位②は除外する）。

5. ワールドカップ第 6 戦（最終戦）ヘレンベーン大会（3/6～7、オランダ・ヘレンベーン、500m・1000m・1500m・女子 3000m・男子 5000m・Ms・MixG）

※ 実施種目は未定（上記は昨年度の実施種目）。

※ MixG（ミックスジェンダーリレー）は、昨年度、デモンストレーションイベントとして実施。

【選考方針】

ワールドカップ第 6 戦で十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

ワールドカップ第 1～5 戦までのポイントランキングにより、各種目は以下の通り滑走可能選手数が制限される。 ※今年度のルールは未定（下記は昨年度のルール）。

- ・ 500m、1000m、1500m、女子 3000m 及び男子 5000m は最大 12 名（24 位以内がそれぞれエントリー可能）
- ・ Ms は最大 18 名（30 位以内がエントリー可能）

【選考基準】

- (1) 個人種目の各出場枠の派遣選手は、滑走可能選手数に相当するワールドカップポイントランキング（500m～5000m は 12 位、Ms は 18 位）以内の選手を選考する。
- (2) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ ワールドカップ第 5 戦終了時に各国のエントリー状況を確認し、エントリー可能範囲内の選手（500m～1500m、女子 3000m 及び男子 5000m は 13～24 位、Ms は 19～30 位）を選考する場合がある。

【ISU ワールドカップ参加標準記録】

女子			男子		
	カルガリー ソルトレークシティ ウルムチ	その他		カルガリー ソルトレークシティ ウルムチ	その他
500m	39,50	40,00	500m	35,70	36,20
1000m	1.19,00	1.20,00	1000m	1.11,00	1.12,00
1500m	2.00,50	2.02,00	1500m	1.49,00	1.50,50
3000m	4.19,00	4.22,00	5000m	6.40,00	6.45,00
5000m	7.23,00 又は 4.11,00(3000m)	7.33,00 又は 4.14,00(3000m)	10000m	13.30,00 又は 6.28,00(5000m)	13.40,00 又は 6.33,00(5000m)

※ 対象競技会は、2019年7月1日以降に開催されたすべてのISUメンバーに参加資格が与えられている国際競技会（ISUルール第107条4項に従う）、全日本スピードスケート距離別選手権大会、全日本スピードスケート選手権大会、全日本ジュニアスピードスケート選手権大会とする。

※ 上記の記録は2019/2020シーズン（昨シーズン）のものであり、2020/2021シーズン（今シーズン）のものはISUによって変更される場合がある。

【派遣標準記録】

女子			男子		
	A 標準	B 標準		A 標準	B 標準
500m	38,34	39,81	500m	35,06	35,95
1000m	1.16,17	1.19,55	1000m	1.09,55	1.11,18
1500m	1.57,79	2.02,80	1500m	1.46,95	1.50,54
3000m	4.07,18	4.19,12	5000m	6.21,97	6.37,19
5000m	7.09,21	7.24,69 又は 4.19,12(3000m)	10000m	13.14,78	13.37,65 又は 6.37,19(5000m)

※ 対象競技会は、2020年7月1日以降に開催された日本スケート連盟主催大会とする。

※ 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mについては、2018年度及び2019年度WC（カルガリー・ソルトレークシティ、最終戦以外）の各種目8番目のタイムの平均値をA標準、各種目35番目のタイムの平均値をB標準とした。また、女子5000m、男子10000mについては、2017年度WCスタヴァンゲル大会、2018年度WCトマショフマゾウィエツキ大会及び2019年度ヌルスルタン大会の各種目8番目のタイムをA標準、各種目26番目のタイムまたは女子3000m、男子5000m各種目B標準の記録を、B標準とした。

※ Msの派遣標準記録は1500m～10000mまでのいずれか1つを対象とする。